

岩手のたたかいに学ぼう 被災者・被災地の声を生かした人間復興
「災害対策全国交流集会 2018in いわて」

記録担当者お名前 所属 東京災対連 お名前 伊藤潤一	助言者お名前 所属 科学者会議 中山俊雄 防災首都圏 末延渥史	司会担当者お名前 (所属 東京災対連 お名前 川合将文) (所属 東京災対連 お名前 児玉紀子)
分科会名 (第4分科会) (テーマ 地震や豪雨にどう備えるか、防災を考える)		参加者数 14 都道府県 42 人

【討論要旨】

前半を豪雨、後半を地震に分けて運営した。

前半 (パワーポイント)

助言者の中山氏から、戦後の台風の事例や最近の豪雨災害、特に岡山真備町の災害について紹介がされた。水害が発生する地域は、過去にも水害があり、資料等が残されているので、調べておくことが大事、また、常総や真備町の被害状況がハザードマップと同じだったことから事前に予想し、河川の堤防工事等対応していくことが重要。公助に役割を果たさせる監視が重要。その点では、常総の水害訴訟の役割が重要。

前半の発言 (敬称略)

京都 (久森)

自治体が分譲した住宅地が5年で7回浸水した。裁判に訴え、来年結審する。

茨城 (染谷)

裁判に訴えることにしが、裁判後の困難さも抱える中議論してきた。32人と1法人が原告となって裁判でたたかう。鬼怒川の上流には4つのダムがある。下流の堤防に税金を使わず、ダムづくりに税金を使っている。決壊しない堤防を。

生公連 (竹内)

土地・家は、売り手に責任がある。財務省に予算要求しても厳しい、財務省に被災者の声を。

宮城 (鈴木)

川は、下流に行くほど広がる。しかし、護岸・堤防で広くできないので堤防を高くする。河川行政を根本的に見直すことが重要。地盤の問題も含め、家を買う人がチェックできない。そういうことでいいのか、問題提起をどこかでしてほしい。

後半 (パワーポイント)

助言者の末延氏から地震への防災について報告がされた。災害はいつ起こるかわからない。しかし、想定外ではない、命をどのように守るのか優先順位が必要。予防原則の確立が重要であり、公的責任、即ち憲法に定められた生存権・財産権・25条を保障する立場が重要。

要支援者・高齢者への対応は町会・自治会任せになっている。阪神・淡路の死亡者の8割は家屋

岩手のたたかいに学ぼう 被災者・被災地の声を生かした人間復興
「災害対策全国交流集会 2018inいわて」

の倒壊。旧耐震の木造住宅などの耐震診断・耐震補強、ブロックを生垣へ改造するなど、社会の脆弱性を改善・解消していくことが重要。

自助・共助というが、「災害は個人の対応責任を超える（自助の限界）」ものである。国・自治体に対し、果たすべき公的責任を迫及していくことが重要。

後半の発言（敬称略）

宮城（鈴木）

予防の原則とは？ 自助・共助・公助の関係は？

岩手（前川）

釜石では3月3日、避難訓練をした。山に避難する。防災センターに避難するなどの避難訓練が行われた。しかし、3月11日は、山に避難した人は全員助かったが、防災センターに避難した人は全員犠牲になった。避難訓練のあり方の総点検が必要。

行政は、被災状況や防災訓練のあり方などをしっかり検証し、報告する責任がある。

あっちこっちで防潮堤をつくっているが、安心できない。

広島（川后）

危険な場所に多くの人住んでいる。安全な場所への移転を公的にどうするのか。

京都（久森）

京都では、通学路のブロック塀の調査と小中学校のブロック塀の調査を委託で実施している。防災・復興に係る団体・業者が自治体との防災協定を締結する運動が重要。

国土交通労組（ ）

地震速報を確認し、地震が収まってから逃げる。地震の状況を正しく理解して、正しく逃げることが大事。

文書発言

東京（千代崎） テーマ「防災・予防保全が大切」